

聖書:列王記第二 4章38~44節

説教:彼らは食べて残すだろう

はじめに

昨日、すばらしい天候の中、無事に墓前礼拝および納骨式を執り行うことができました。教会墓地の前に立ちながら、改めて永遠のいのちについて覚えるときとなりました。さて今日の箇所に入る前に、いつものように前回までのあらすじを振り返っていきます。いまからおよそ二千七百年前、北王国イスラエルで活動していたエリシャは、シュネムという町に住む女性に「来年の今ごろ、あなたは男の子を抱くようになる」と語ると、女性は最初笑って信じませんでした。やがてそのとおりになります。ところがその男の子が大きくなったとき、突然の病に襲われ、あっけなく死んでしまふ。母親は呆然としながらも、いっぼうで、神は気まぐれのように子どもを与え、気まぐれのように子どもを取り去る方なのかどうか、そのような疑問がふつふつと湧いてきて、エリシャのところへ走り、「私は決してあなたを離しません」と言って、この疑問に答えるようにと直談判するのです。その結果、エリシャは死んだ子どもをよみがえらせ、母親の手に戻します。神への信頼がゆらいでいた母親でしたが、神のほうからの愛は、まったく変わらずに母親に注がれていたことを見ました。それが前回までところでした。

今日は一転して場面は、預言者の仲間たちの話に変わり、大きく分けると二つあります。前半が煮物の話。後半がパンの話。どうしてここにこの二つの出来事が記されているのか。結論から言えば、実はここにイエス・キリストのことが示されているのですが、それはどのようなことなのか。ともに考えて参ります。

1 エリシャ

1) 煮物の毒を消す

38節を読みます。「エリシャがギルガルに帰って来たとき、この地に飢饉が起こった。預言者の仲間たちが彼の前に座っていたので、彼は若者に命じた。『大きな釜を火にかけ、預言者の仲間たちのために煮物を作りなさい。』」

「預言者の仲間たちが彼の前に座っていた」とあることから、エリシャのところに若い人たちが大勢集まり、訓練を受けていた。いまでいえばエリシャが神学校の校長をしていたということでしょう。そんなあるとき、大きな飢饉が起きてパ

ンも満足に食べられない状態になります。神学校の校長は大変で、学生たちの食事のことまで考えないといけません。それで釜でお湯を沸かせと命じます。しかし鍋の中身については指示がありません。そこでみんなで手分けして、鍋に入れる食材を探しに行ったところ、ある学生が野生の瓜を一杯取って来て鍋に入れました。ところが、食べようとして口に持っていった瞬間、皆が叫びます。「神の人よ、釜の中に毒が入っています。」皆さんの聖書に「毒」というところに米印があって、下の欄を見ると「直訳「死」」と書いてあるのがわかると思います。「鍋の中に死が入っている」と叫んだわけです。

秋になるとときどき毒キノコを間違っただけで大変なことになったというニュースを聞きます。私は食べたことがないのでわかりませんが、たぶん、食べる時はおいしく感じるのでしょうか。しかし、この場合は口にしたら途端に吐き出すくらいです。相当変な味がした。普通なら怖くてすぐに全部棄ててしまうところ。ところがエリシャが麦粉を釜の中に投げ入れると、食べられるようになったというのです。麦粉に毒消しの作用があると聞いたことはありませんから、これは神による奇跡ということでしょう。ここだけを見るなら、「それはすごい話だね」で終わりです。

2) 足りなかったパンを満たす

しかしこの話しには続きがあります。先ほどの事件かの翌年くらいなのでしょう。飢饉が去って、その年はうってかわって豊作になったようです。ある人が、神学校の学生たちに食べさせようと思っ、パンと小麦粉を持って来ました。それでエリシャは、学生全員に分けなさいと命じるのですが、召使いは困った顔をしながらこう言います。43節。「これだけで、どうして百人もの人に分けられるのでしょうか。」

北海道聖書学院でも、秋になると、学生たちに食べてもらいたいということであちこちから畑の野菜や、果物とかが送られてきます。たまたまそこへ私が行きますと、先生ももって行ってくださいと言われて、お裾分けにあずかることがあります。学院の学生は人数も多くありませんから、分けるのに困るということはありません。しかし、エリシャの場合はまったく数が足りません。それなの

に、エリシャは43節後半でこう言うのです。「この人たちに与えて食べさせなさい。主はこう言われる。『彼らは食べて残すだろう。』」

それで実際に配ったら、本当に食べて残しました。まずくて残したというのではなく、満腹するほど食べて、それでも残ったということです。

先ほどは、釜の煮物が食べられなかったのに、食べられるようになりました。そして今度は、パンが足りなかったはずなのに全員満腹するほど食べて、残した。なぜこの二つがここに並べられて書かれているのか。たまたまではありません。なにか理由があります。それで、これと似たような話しが他にもなかったかどうか、探してみると、旧約と新約に一箇所ずつ見つけることができました。

2 モーセ

1) 苦い水を甘くする：マラ

まず旧約のほうですが、出エジプト記15章です。イスラエルの民がエジプトから脱出してまだ荒野の旅を始めたばかりのころです。どこにも水が見つからず困っていたとき、マラという土地に来るとやっと水を探し当てることができた。ところがいざ水を飲もうとしたら苦くて飲むことができず、大騒ぎになるのです。それが24節です。「民はモーセに向かって「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。」

数年前にイスラエルに行ったとき、水のことでも失敗したことがありました。行く前には「水には十分注意しなさい」と言われて気をつけていたつもりだったのですが、喉が渴いていたので、レストランで出された水を大丈夫だろうと飲んだら、とたんに腹を壊してしまいました。別に毒が入っていたのではなく、水に入っているミネラルが日本人には合わなくてお腹を壊すのだそうです。苦い水というもおそらくそういう水だったのでしょう。さすがのイスラエル人も飲めなかった。そこでモーセは、主が示してくださった一本の木を水に投げ入れると水が甘くなり、安全に飲めるようになった。そのような話しが15章にあります。それだけで終われば、エリシャのときの、食べられなかった煮物が食べられるようになった話しと偶然似ているだけということになります。ところがこれには続きがある。

2) 荒野にマナを降らせる：シンの荒野

この苦い水の話しのすぐ後の16章です。イスラエルの民がシンの荒野に入ると、今度は食べ物がないと言って騒ぎ出します。それでモーセはこう言

います。4節前半です。「見よ、わたしはあなたのために天からパンを降らせる。」

神が天からマナを降らせ、それをイスラエルの民たちが毎朝集めて食べたという有名な箇所です。先ほどは水が飲めなかった話しのあとに、食べるパンがないという話しが続きます。エリシャの話しと比べてみてください。エリシャの時は、釜の煮物が飲めないという話しのあとに、パンが足りないという話しが続く。これを単なる偶然だと言う人はほとんどいないでしょう。では、これがなにを意味するのか。ここだけ見ていてもわかりません。

3 わたしの肉、わたしの血

1) わたしはいのちのパンです

それで今度は新約のヨハネの福音書6章を開きます。そこには五つのパンと二匹の魚しかなかったのに、イエスがおよそ五千人の人たちがお腹いっぱい食べさせ、それでも十二のかご分のパンが残ったという出来事が書かれています。そのことに関連して、イエスはヨハネの福音書6章48～50節、56節でこう語るのです。「わたしはいのちのパンです。あなたがたの先祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことはありません。」「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。」

五千人の人たちが満腹してもまだパンが残りました。パンを食べた人数は違いますがエリシャの時の話しとよく似ていませんか。また、モーセの時に天から降ってきたマナは、イエスご自身のからだのことがつながっていると語っています。

モーセの時も、エリシャの時も、ひとこともイエス・キリストというお名前は出てきません。ですから、そこだけを読めばみんなばらばらの話しにしか思えません。けれども、こうして比べてみると、実はぜんぶ一本の糸、イエス・キリストという糸でつながっているのです。聖書はそんなふうに書かれていたのです。

そうなるのでは、エリシャの時の煮物毒物事件とか、モーセの時の水が苦くて飲めなかった事件。あれはどんな意味があったのかということになります。パンでつながっているのであれば、ぜんぶイエス・キリストが流された血とつながっていたと見るができます。

聖書を読むと、イエスは新約の時代になって、突然来られたかのような印象を持ちますが、そうで

はありません。モーセの時、エリシャの時、旧約の時代、やがて来られるイエスはこのような事をされるのだと、いろいろな人たちを通してなんども繰り返し、神はあらかじめ語ってくださっていたのです。

2) 聖餐に招いてくださる主

きょうはこの後、聖餐式を執り行うことになっています。十字架で裂かれたイエス・キリストのからだ、そこで流された血潮。そのようにして私たちを罪から救おうとされた十字架のみわざを覚えながら味わっていきます。その聖餐の場に私たちは招かれています。そこで神は私たちになんと語りかけてくださるのでしょうか。今日の箇所を三度繰り返して出てきます。41節。「この人たちに食べさせなさい。」42節。「この人たちに与えて食べさせなさい。」43節。「この人たちに与えて食べさせなさい。」

私たちが救うために、ご自分のからだを、あり余るほどの恵みとして私たちに与えてくださる主に感謝したいと願います。